

藤波の里

所在 伊勢市佐八町

当遺跡は、宮川右岸標高一六^{メートル}を測る河岸段丘上に立地します。

遺跡の範囲はおよそ東西二五〇×三七〇^{メートル}にもおよぶ広大なものと推定されています。遺跡の時代は縄文時代後・晩期をはじめ弥生時代後期および古墳時代から歴史時代にいたり、当時の人々が使用した石器や土器が多数散布しています。

このうち縄文時代の資料は、石鏃^{せきぞく}(やじり)・石斧^{せきふ}(おの)・岩偶^{がんぐう}(石の人形)石錐^{せきすい}(きり)・石錘^{せきすい}(おもり)・各種の土器が見つかっており、この地方でも早くから縄文人が生活していたことがわかります。

古墳時代の資料は、土器・勾玉^{まがたま}などが確認されており、学校裏の畑地には径一五^{メートル}ほどの古墳と推定される高まりも残っています。また、神宮祭主・藤波氏の居宅地もこの付近に所在していたと推定されており、国指定重要文化財「伊勢新名所絵歌合^{いせしんめいしよえうたあわせ}」にも描かれています。

現在の校舎下を発掘調査した時には、円墳の痕跡二基、平安時代末鎌倉時代にかけて掘立柱建物二棟・溝・土坑^{ちりつ}・墓や、当時の貴重な遺物が出土しました。